

桑名市総合医療センターニュース

第0012号 平成25年4月発行



新しいスタッフを迎えました

桑名市総合医療センターでは、平成25年度38名の新しいスタッフを迎えました。
4月1日の入職式では足立理事長より新しいスタッフへ向け挨拶がありました。

桜の満開の下、桑名市総合医療センターへのご入職、おめでとうございます。

桑名市総合医療センターは現在東、西、南の3センターからなっていますので、皆さんの仕事の場は2年後の新しい病院の開院まではそれぞれに分かれます。しかし、皆さんには桑名市の地域医療を支えていくという共通の大きな目標があります。新病院を前にして今何をするべきかについて常に自分で考えながら仕事に打ち込んでほしいと思います。

病院の基本理念は、「最良の医療を提供し、地域の皆様から信頼され必要とされる病院を目指します」です。病院は単に病気を治すためだけの存在ではなく、病気を持ったひとが医療を受けまた社会に戻ってゆく出会いの場でもあります。その中で患者、ご家族の皆さんからの信頼を得るためにはどうしたら良いのかを一緒に考えながら行動していきましょう。

病院の基本方針の中の「恕」という言葉は自分のことのように他者を思いやることという意味です。どうぞ自分のご家族に接するのと同じような思いやりの心を持って患者さんにも接してください。そして、何か自分自身の目標を持ち、単に仕事を義務としてこなすのではなく、その中に喜びを見出して生き生きと仕事をしてください。きっと患者さんにも皆さんの笑顔が伝染すると思います。

皆さんの門出を祝してのご挨拶とさせていただきます。
理事長 足立 幸彦



医師の着任・退職

◆4月1日～ 着任

＜桑名東医療センター＞

(循環器科) 水谷 英夫

(内科) 小島 昌泰

(整形外科) 矢田 祐基

(研修医) 佐藤 徹 舘野 晴彦 着本 望音

廣瀬 恵介 真弓 徳大 村上 弘明

＜桑名西医療センター＞

(外科) 橋本 清

(内科) 藤本 信乃 *初期研修終了後

(眼科) 清水 裕司 (非常勤)

(血液内科) 川瀬 有美 (非常勤)

(研修医) 中川 陽子

＜桑名南医療センター＞

(循環器内科) 芳川 史嗣

(外科) 梶井 大輔 (非常勤)

◆退職

桑名東医療センター

(循環器科) 水野 修

桑名西医療センター

(外科) 川村 幹雄

(内科) 深川 一史

(内科) 芳川 史嗣 *南医療センターへ異動

(皮膚科) 八木 宗彦

(皮膚科) 安藤 葉子 (非常勤)

(眼科) 久瀬 真奈美 (非常勤)

桑名南医療センター

(外科) 芦刈 周平 (非常勤)

<問題>

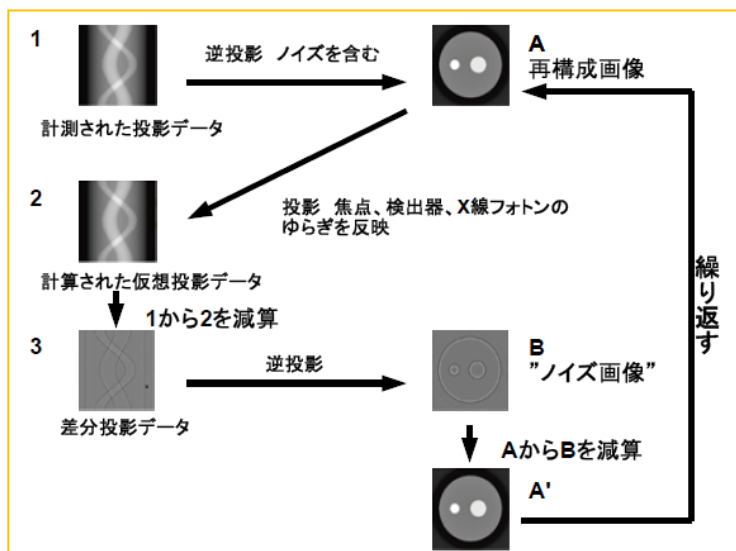
頭部CTで水晶体が被曝すると白内障になりますか？

桑名西医療センターに新しいCTが導入されました。前号で紹介されていたので、ご承知の方も多いかと思います。その中で最新の技術により被曝低減が可能と紹介されていましたが、どういことでしょうか。川口の理解の範囲でご紹介したいと思います。

この技術は“SAFIRE”というCTにおいて収集したデータを画像に変換する技術です。その中でも、最近CTに関して話題の中心となっている「逐次近似画像再構成法(IR法)」の一つです。従来法である「FBP(filtered back-projection)法」は実測されたX線の投影データを逆投影することによって画像化する方法であり、数式にしたがってコンピュータで計算するものです。

一方話題の逐次近似画像再構成法は撮影データから画像を作成し、その画像を投影処理することにより仮想投影データを得ます。その仮想投影データと、撮影(計測)により得られた元の投影データとの差分をもとめ、差分データを逆投影することにより得られた画像を最初の画像から減算するといった作業を繰り返すことで元の撮影データにより忠実な画像データが得られるものです¹⁾。

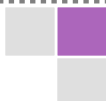
逐次近似画像再構成概念



FBP法では計算が比較的簡単であり、1970年代から最近までのコンピュータでも実用の範囲で計算が可能でした。一方同法では本来面積をもつエックス線源、検出器は点として規定され、広がりをもつエックス線も直線として規定されていました。この現実のCTシステムモデルを反映していないという点が、アーチファクトの原因の一つとなっていました。

IR法では仮想投影データを求める際にエックス線源、検出器、エックス線の経路は現実のサイズ・形態を反映することが可能です。しかし、その計算に膨大な時間がかかり、実用不可能でした²⁾。近年コンピュータの性能が向上し、部分的なIR法が実装可能となってきました。IR法により現実的なCTスキャナモデルを考慮し、データ矛盾から生じるアーチファクトの抑制が可能となりました。このことにより画質が向上するため、今までと同レベルの画像であれば被曝を50%程度低減できるといわれています。

IR法の進歩、他の方法による被曝低減技術により、CTによる被曝はさらに低減されると思われます。新病院が開院するころにはCTによる被曝を胸部レ線、腹部レ線と同程度にまで低下するシステムが実装されているかもしれません。今後も新しい技術を取り入れ、日々の医療に役立てていきたいと考えます。



<答え>

眼窩を照射野に含めて撮影した場合の水晶体の線量は50~100mGyといわれている。従来考えられていた閾値5Gy説を採用すると数回程度のCT検査では白内障が生じないと考えられる。最近閾値がより低い、あるいは閾値が無いとする報告がみられ³⁾、1回の全脳CTで白内障のリスクが数%増加する可能性がある。白内障リスクに閾値が無いとする最も厳しい説を採用すると、IR法により被曝線量を低減できればリスクをそれだけ低減できると考える。

参考文献

- 1) <http://www.innervision.co.jp/suite/siemens/supplement/1111/s401/index.html>
- 2) https://gecommunity.on.arena.ne.jp/ct750hd/modules/page/index.php?content_id=16
- 3) Neriishi K, Radiat Res. 2007 Oct;168(4):404-8.

平成24年度 臨床研修医修了式

平成25年3月7日(木)桑名市総合医療センター臨床研修医修了式を開催しました。今年度は桑名東医療センター5名、桑名西医療センター2名の研修医が研修を修了致しました。うち1名は4月から桑名西医療センターにて引き続き勤務致します。この4月からは合わせて7名の新しい研修医が研修を開始しています。よろしくお願い致します。



新看護部長就任のご挨拶 桑名東医療センター



平成25年4月より看護部長に就任致しました落合信子です。
当院では2年の経験しかないため不慣れで不安を抱えての就任となりました。しかし、平成27年4月には新病院の開院が待っています。それまでの2年間でやっておかななくてはならない事が山積していますが、3病院の看護部で力を合わせて、地域の皆様には是非とも「新病院が出来て良かった!」と言って頂ける病院になれるよう努力してまいります。
皆様のご指導・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

5月12日~18日は看護週間です

看護週間は看護の心、ケアの心、助け合いの心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるように制定されました。

当法人では、看護週間のイベントを開催致します。

<東医療センター>

5月18日(土)
10時~12時 1階ロビー
体脂肪測定、健康相談など
14時~15時
癒しの音楽演奏

<西医療センター>

5月14日(火)~17日(金)
生花の展示、部署紹介
5月17日(金)
10時~12時 西出入り口にて
健康相談、乳がん術後のボディメイク支援など
15時~ 外来2階にて
体操・演奏・遊戯



桑名西医療センター

<診療変更のお知らせ>

◆眼科診療変更

火曜日 久瀬医師退職
→金曜日 清水医師着任
火曜日 休診

◆皮膚科

外来休診

◆血液内科

毎週月曜日午前の診療を追加しました。

